

# 5年組 体育科学習指導案

日時 平成15年月日( )

第3時限 10:35~11:20

場所 一階 体育館

授業者 柳井 沢郎

## 1、単元名 「マット運動」

(前転、後転、開脚前転、開脚後転、跳び前転、伸膝後転など)

## 2、指導にあたって

### (1) 単元について

マット運動は、器械運動における鉄棒運動や跳び箱運動と比べ、「表す」という面でとても優れた運動である。鉄棒や跳び箱運動がダイナミックなスリルのある技によって「出来る喜び」を味わわせてくれるのに対して、マット運動ではダイナミックな技が出来るようになることにととまらず、一つの技(単一技)と一つの技(単一技)の組み合わせによって、表現できる幅が大変広くなる。

マット運動では、いくつかの単一技を覚えれば、それを組み合わせる事がすぐにでき、組み合わせた技を滑らかに行うこともさほど難しいことではない。さらにこのような「組み合わせで表現できる」という面白さがあるため、子どもたち一人一人が「自分らしさ」を表現することが可能になる。つまり、いろいろな表現ができるために、技の難しさとは違う「個人の持ち味」が出やすいため、かけがえのない一人一人の個性が表しやすい、という教育的価値を見出すことができる。

### (2) 運動について

本時は、回転する技、つまり前転とその発展技、後転とその発展技を題材として取り上げた。6年生では「自分らしさ」を表現する連続技を児童に創作させるので、6年生につなげる意味でも、5年生では、基本的な前転の技と後転の技を全員ができるようにしたい。

そのため前時までに、自分の選択した技を、よりうまくできるように取り組むことで活動量を確保するとともに、「なぜその技が出来るのか、出来ないのか」という点を考える事によって、「頭で分かり、そして体で表現できる」楽しさを十分に味わわせたいと考え、授業を仕組んできた。

### (3) 児童、集団について

マット運動における児童の実態としては、前転や後転は、ほとどの児童もできるが、中には基本的な前転や後転が出来ない児童も数名みられる。また、開脚前転、開脚後転、跳び前転、伸膝後転については初めて経験する技のようで、より上手に演技する為の技術的な方法を児童が模索している状態である。

また、集団は「つれ 仲間 同志」として発展していくととらえている。「つれ」の姿をそろって学習できる、「仲間」の姿を仲間を大切にできる、「同志」の姿を一人一人の力を生かし関わりあって学習できるととらえると、現在の発達段階を考え、メンバーと声をかけ合いながら共に学習できる「仲間」の姿を目指したい。

「仲間」の姿を目指すとして、現在の集団の実態を考えると、自分が出来る事の喜びが先行し、グループの友達のつまずきに対して目を向けたり、友達の成功を喜んだりするような姿は見られない。

よって、出来ない友達に声をかけたり、友達の成功を喜んだり、出来る友達の演技を参考にしたりして、互いに援助しながら高めあっていける姿を目指したい。

共に関わりあえる体育集団の育成を通して、一人一人の力を生かし関わりあって学習できる学級集団を目指すため、本単元を設定した。

3、本時について

(1) ねらい

**運動** 自分の弱点となっているところを中心に練習を行う事によって、連続技につながるように、自分が選択した前転の技と後転の技をスムーズに出来るようにする。

**集団** 練習のめあてを知り、アドバイスしたり努力をする姿を励ます事が出来る。

(2) 展開

時	学習活動		教師の支援、留意点	
	運動	集団	運動	集団
つかむ	なめらかに連続技が出来るように自分の選んだ技を、スムーズにできるようになろう！	仲間へアドバイスしたり、頑張っている姿を励ましあったりしよう！	最終的には連続技につながる事を押さえ、連続の技を示範することによって今日の練習のポイントを押さえる。	仲間のアドバイスが技能の上達につながることを話し、グループ学習の大切さを話す。
	学習カードに今日のめあてを書く。	仲間の成功を一緒に喜ぶには、仲間の技にも関心を寄せ、互いに声をかけ合わなければならない事を知る。	自分の実態に応じためあてを持つことができているかみとどける。	
活動する	自分の選んだ技を中心に、よりうまくできるように練習する。 (前転、後転、開脚前転、開脚後転、跳び前転、伸膝後転)	仲間の技にも関心を持ち、互いに声をかけ合う。	技能のつまずきがある児童には、連続図や援助マットを利用させたりして、成功へのコツをつかませる。	仲間どうしの声かけやアドバイスによって、めあてを意識し、積極的に回数を多くこなしているか見届ける。
振り返る	苦手な技は連続図を見て練習する。	仲間のつまずきに対して一緒に考える。	ポイントになる点(手の付き方等)を押さえる。	メンバーに対する声かけができていないか。
	本時の練習の成果を精一杯発揮できるよう、各グループで発表会を行う。	今日のめあてに向かって友達の頑張っている姿を認めた発表会が出来るようにする。		うまくできなくても真剣に練習に取り組む児童をメンバーの前で誉める。
	めあての振り返りを行う。 よい動きをもう一度確認する。 次時への課題を知る。		課題にこだわって練習し、成果が現れた児童を価値付ける。	グループでの援助活動の望ましい姿を全体の場で賞賛する。